

本日は世界的に祝われている「母の日」であるので、聖書から母とその娘について書かれている、エゼキエル書16章44節から神のメッセージを聴きたい。

I. 母なき最初の母エバ

人類で只一人母を持たずに母となった女性がいる。アダムの妻エバである。彼女は母から生まれたのではなく、アダムのあばら骨の一本から造られたのであると聖書は言う。(創世記2:22、マラキ書2:15新改訳参照)

このような母親の存在を知らなかったエバについて、イギリスの詩人ラーフ・ホジソンは Poor motherless Eve(「可哀想な母なきエバ」)という詩を書いている。もし、エバに母親がいたら、母のアドバイスによって、夫アダムの側を離れて蛇の甘言を聞き、神の戒めの言葉を破って人類に罪を齎す存在にならなかったのかも知れない。

II. 悪しき母の手本とその娘

それは北王国イスラエルの王アハブの妻イゼベルとその娘アタルヤである。当時、南王国ユダの王ヨシャファトは北王国のアバブと和を結び、その証に息子のヨラムの嫁にアハブとイゼベルの娘アタルヤを迎えた。

アタルヤの嫁入り道具となったのが、偶像バアルの預言者450人とアシェラの預言者400人であった。(列王記上18:19)従って北王国にはバアルの偶像信仰が急速に蔓延した。この時、活躍したのが預言者エリヤであった。

その後、アタルヤは息子のアハズヤ王が即位1年で不慮の死を遂げると、王位継承の王子たちを皆殺しにして、自分が女王となって君臨し、6年間王位を恣にした。

次に、新約聖書から悪しき例を上げると、ガリラヤの国主アンテパスの妻ヘロデアとその娘である。ヘロデアはアンテパスの兄弟ピリピの妻であったが、夫を捨て娘と共に、アンテパスに嫁いだ。それに異議を唱えたのが、バプテスマのヨハネであった。

しかし、アンテパス王は自分の誕生祝いに踊ってくれたヘロデアの娘の褒美として、母の口添えによってバプテスマのヨハネの首をヘロデアとその娘の要求に従って渡した。

III. 良き母の手本とその娘

この母と娘は実の親子ではないが、それに勝るものであった。それはルツ記の中に登場している、義母ナオミとモアブ人の嫁ルツである。

二人は共に夫を亡くして寡婦となった。そこでナオミはルツを実家に帰して、一人で故郷ベツレヘムは帰ろうとした。しかし、ルツは義母ナオミから離れたくないと言って聞かない。それは決して義理人情からではなく、「あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神」(ルツ記1:16)と、異教徒であったルツは結婚によって、義母ナオミと同じ信仰を持ったからであった。

かくして二人は尾羽打ち枯らしてベツレヘムに帰って来た。そこでルツは生活の為、ユダヤ教で許されている他人の田に落ちている落ち穂を拾った。この時、畑の所有者ボアズとの結婚に導かれ、その子孫はオベド、エッサイ、と続きダビデとなり、ルツはダビデ王家の先祖になる大いなる名誉と祝福を受ける者となるのである。私たちが祝福の道を選びたい。